

# 令和5年度 第5回 豊田市猿投地域会議 会議録

開催日時	令和5年8月24日(木)	開会	閉会
		午後7時00分	午後8時10分
会場	猿投北交流館1階 多目的ホール		
出席者	地域会議委員：16人		
	会長：林 哲夫 副会長：近藤 宗行		
	委員：池田 利雄 磯谷 雅彦 梅村 基 大澤 正利 近藤 隆光 爾見 綾子 高橋 直子 田中 則夫 羽根田 三枝子 林 昇司 眞木 保 森 篤史 森田 裕子 山田 和孝		
欠席者	2名( 梅村 寿 宮川 延孝 )		
オブザーバー	豊田市議会議員：羽根田利明		
傍聴者	なし		
事務局	豊田市 太田市長 地域振興部：後藤部長 猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、宮石担当長、岩村(麻)書記 企画政策部：都築副部長、企画課：丹羽副課長、都市計画課：西岡担当長		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊田市民の誓い(唱和)</li> <li>2. 会長あいさつ</li> <li>3. 第9次豊田市総合計画策定に関する諮問について <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長あいさつ</li> <li>・諮問書の授受</li> <li>・企画課、都市計画課より諮問の概要説明</li> <li>・市長との意見交換会</li> </ul> </li> <li>4. 情報共有・事務連絡</li> </ol>		

## ■議事(要約)

### 2 会長あいさつ

### 3 第9次豊田市総合計画策定に関する諮問

#### ■市長あいさつ

- ・地域会議については、従前のスタイルから変えて、諮問答申あるいはその地域の特定の課題の深掘をすることに特化しました。
- ・諮問の内容については、なかなか理解しづらいものですから、意見は何でも構いません。そういう諮問になります。
- ・各地域会議に行き、いろんな意見交換ができればと思って参りましたので、よろしく願いいたします。

#### ■諮問書の授受

市長から会長に諮問書を手渡し

<地域会議委員との写真撮影>

■ 諮問の概要説明（資料 2・3 頁）

企画課、都市計画課職員から資料に基づいて説明

■ 意見交換会

（委員）

- ・ 資料 2 頁の「まちづくりの基本的な考え方」には「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」へと謳われているが、都市構造を見ると、行政のリーダーシップが求められると感じられる。

（市長）

- ・ 行政がリードするというのはおっしゃるとおり。特にこの都市構造を考えるときには、やっぱり行政が考えをしっかりとリードする必要があると思います。ただ、実際に、都市構造をこういうふうに変えようとしたときには、行政だけが動いていても何もできないので、市民の皆さんと一緒にやる必要があると思います。
- ・ とりわけ、それが顕著に出るのがソフト事業です。ソフト事業というものは行政がどうのこうのというよりも、ここに書いてあるとおり、多様な主体が楽しむまちづくりということで、資料の「発想の転換」の 4 つの項目が行ったり来たりすることになります。
- ・ 多様な主体が楽しむまちづくりというのは、やっぱり一つ目の「つながり・関係性の拡がり・深まり」、ここにものすごく関係してきます。それぞれの主体が閉じた形で、それぞれのできる範囲でやっても限界があるが、それがつながることによって、多様な主体が楽しむまちづくりをすることで、より可能性が広がる。二つ目の「あるものを生かす」ということに繋がってきますし、三つ目のかけ算思考にも関係する。このように全部が相互に関係しあう内容になります。

（委員）

- ・ ちょっと現実的な話になりますが、先ほど話のあった猿投地区は非常に豊富な自然と、豊富な農産物だとか、そういったものと調和を取ったまちづくりをというような説明がありました。2021年、22年に猿投山は、東海エリアで最も登られた山となっている。猿投神社、山中観音堂、龍性院など、自然とあわせて古くからの遺跡を市として、どうしていくか何か青写真の的なものがあるのか。

（市長）

- ・ 話題にはしているけれども、なかなか所有の関係や、さまざまな要因で、簡単には話が進まないなという感じがしている。ただ、猿投神社や龍性院の歴史的な価値があることは、当然皆さんもご承知のとおりですので、しっかりと守って伝えていかないとはいけません。

（委員）

- ・ 実家が桃の専業農家をやっています。日本全国至る所で農業をやめていく人が多くなっており、舞木町も跡継ぎがなかなか育たないという問題があります。今後、市として、農家育成や農業支援をどのように行っていくのか。

（市長）

- ・担い手の育成はご存じのとおり、農ライフ創生センターでの取組を通じて、後継者の育成や、農業に関心のある人を増やしていく。新規就農を希望する人たちに農地を提供する里親制度があります。全く経験のない人が研修を受けて里親である既存の農家さんと、その指導のもとに1年、2年研修期間があって、そこからまた自立していくという。その時には農地を分けて提供するという取組で決して爆発的な効果はないが、そういう取組を地道にやっぱり継続していくしかないような気がします。

高齢化に伴ってやめていかれる方が多いので、それはもう止めようがない。新しい人は、今の世の中どこの業界でも担い手不足で取り合いになっているので難しい。

でも難しいけれども、決して諦めない諦めるわけにはいきませんので、そういうときに地道にやっていくということになると思います。

(委員)

- ・農業・山林など農家をやめていく中で、その土地を企業に転売、転作した結果、人や車の流れが変わった。かなり住宅地の中に通勤の車が入ってきてとても危ない。

(市長)

- ・宅地化に伴う車の流れがこういう日常生活を脅かしている話は結構いろんなところにありますので、その話題になったときにはもうゾーン30あるいはゾーン30プラスを積極的に導入する。その時は地元の皆様のご理解が必要です。
- ・別の地域会議の提言を受け取ったのですが、やっぱりその住宅地にそういう車が進入してきて危ない。危ないからゾーン30をやっていくけれども、なかなか効果がないという。よく聞いてみると、ゾーン30がかかっているエリアの人たち自身が、ゾーン30だということ認識していない。
- ・一番効果があるのは、警察の取り締まりです。かといって警察も忙しいので、例えば月に1回そのエリアに周知して、いつ何時、この時間帯に交通取り締まりがありますと周知することによって、このエリアの人たちが、ここがゾーン30だということを知る。自分も気をつけて運転しようとなるはず。そうやって、まず地域からゾーン30の効果を高めていったらどうか。
- ・もう一つは、大抵そういうのは通勤か帰宅の時間ですので、朝や帰りに地域の人が意図的にその地域の中を30キロ制限で走りまわる。走りまわることによって、外から入った車が乱暴な運転をできないようにする。これは足助署管内で、地域の人たちが話し合っただけでペースカーになり制限速度で走ることによって、自動的にその後ろに追従する車がスピードを出せなくしようとした。
- ・ついでに申し上げますと、本日お示した内容は、第9次豊田市総合計画（以下「9次」という。）の前段の前段です。前段の前段で、今私たちが悩んでいることをお話しています。今までの総合計画だと、例えば10年を見通して計画を作ります。第7次総合計画の際は、作って「よし実行するぞ。」と思っただけでいきなりリーマンショックで豊田市の税収がガタガタになって、財源の見通しが立たなくなった。そこで前倒しで第8次に切り替えようということで、計画を作り直したのが、現在の第8次総合計画で2017年から24年までの計画です。

- ・変則的に8年になっているのはどうしてかといいますと、2025年に団塊の世代の人たちが後期高齢者になります。これで一気に高齢化が進むのが2025年です。だからその25年までにいろんなことをやっておかないと、25年になっていきなり団塊の世代が後期高齢者になって、さあどうしようとなると間に合いません。間に合わないので2017年から24年までの計画としました。ところが計画の最後の3~4年間は、新型コロナでまたガタガタです。実は見通して本当に難しいというのが、7次、8次の経験です。
- ・9次を作ろうとすると、もっと複雑で世の中どうなるか分からないところがあって、かつての総合計画の作り方のようなことがもうできないだろうと考えました。それで考えているのが、この右側の「発想の転換」や3つの「変える」意識になります。
- ・多分これからいろいろな考えていくときに迷うと思います。後々、では具体的にどういう事業をやるかとなったときに相当迷うことになる。迷ったらこの「発想の転換」、3つの「変える」の考え方に立ち返り、整理する土俵をあらかじめ決めていくこと。今回の諮問でも分かりにくい部分がありますが、いろいろな見方があると思いますのでアイデアをいただけるとありがたいです。

#### (委員)

- ・豊田市を取り巻く環境の最初に、中長期的な人口減少局面の進展と挙げられていますが、豊田市は今現在、トヨタ自動車のおかげで人口減少の割合がまだおさまっていると感じています。
- ・人口減少を止めるためには、家を建てやすくする必要があると思うが、市街化調整区域と市街化区域の比率はどれぐらいか。また、現在の市街化調整区域を緩和して市街化区域に変えていく方向性があるのか。

#### (都市計画課)

- ・豊田市は、平成17年合併以前だと旧藤岡、旧豊田が都市計画区域となっており、それらを合わせると3万5,500ha。そのうち市街化区域が5,300haとなっており約15%が市街化区域になっています。

#### (市長)

- ・豊田市の人口は減り始めており、何とかして食い止めたいということに変わりはないです。一方で悩ましいのは、市街化調整区域の規制を緩和して、家を建てればそれで済むというわけではなく、付随する道路や水道が必要になり、かなりのコストがかかってくる。だから今は市街化区域に接したところで、地区計画が成立すれば、基本的に市街化区域に編入する方向で考えている。
- ・あとは豊田市の住宅政策は区画整理でずっと進めているということ。
- ・もう一つは、資料に記載の「えきちか居住誘導エリア」がある。市内には鉄道の駅が26ありますが、駅から1km以内またはバス停から500m以内に暮らしている市民の割合は83%です。バスは、月木や火金の週2回で変則的な運行をしているものもあるので、そういったバスまで含めると豊田市民の90.5%がそこに住んでいる。そういう状態でも皆さんに意識調査を行うと一番に公共交通が足りないという声上がる。

- ・駅の近くでは今の若い人は車を持ちたがらない。駅の近くであれば、例えば1つの宅地面積の基準を少し緩和するとか、普通の宅地では駐車場が車2台分必要だけれども、駅の近くなら1台でいいのではないか。さらに無くてもいいのではというような議論がもしもできるのであれば、「えきちか居住誘導エリア」の土地利用は、住宅政策から見てもかなり可能性があるのではないかという話もしている。そうすることで、より安価に若い人たちが宅地を手に入れることができ、豊田市の人口政策にも繋がりますし、若い人がくれば、その町の若返りそのものにも繋がっていきます。様々な可能性を試しながら、人口減少社会にしっかりと向き合えるような手を打っていく必要がある。

(委員)

- ・猿投地域会議では、先ほど意見のありました観光では猿投山、また農産物を売りにしているのに農産物を買うところがない。農業を継いでもらうのに良い仕組みがない。また子どもが遊ぶ場所がないなど、そういう環境の整備に向けた提言を市長の方に提出させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(市長)

- ・他の地域会議に出席した際にも話題にしていますが、交通安全のお話をさせていただきます。子ども達の登下校の見守りを地域の皆さんでやっけていただいていると思います。現在、交通安全の取組はドライバー側から「歩行者保護モデルカー活動」、歩行者側からは「とまってくれてありがとう運動」、両方から交通安全の取組を進めています。「とまってくれてありがとう」というのは、どうしてそういう取組を始めたかという、5、6年前に豊田市の都市交通研究所で、ドライバーはどういう風に声かけをしてもらうのが一番嬉しいと思うか研究をしました。ドライバーが、一番言われて嬉しいのは「ありがとう」でした。交通安全の立哨活動でバナーを持っていますが、「飲酒運転をしてはダメ」、「シートベルトをしなさい」ということが書いてあります。しかし、ほとんどのドライバーにとっては関係ないことです。飲酒運転はしてないし、シートベルトもちゃんとしている、自分のことではないと考える。だから、それらのメッセージは、ドライバーには響かない。それよりも「安全運転ありがとうございます」、「今日も安全運転ありがとうございます」というメッセージの方がドライバーには響くというところから来ています。
- ・登下校で子どもたちを見守るときに、大人の人たちがガチガチに横断歩道を固めていませんか。ガチガチで横断歩道を固めるから子どもは何の心配もなく、その横断歩道をさっさと歩だけで相手方の車に気をつけるということが習慣付かない。そういう機会にできるだけ、子どもに運転手さんを見てごらんと、アイコンタクトを促す。運転者さんを見てありがとうと言おうという声かけをしてもらえるだけで、子ども達はそういうものが習慣付くのではないかと思います。先日オートバイのバイク事故でバイクの方が亡くなったのですが、バイクは直進こちらから来た車が右折という、ものすごく多いパターンでした。どちらかが相手に気づけば、避けられたはずですが、どちらも気づかないのは、もしかしたらそういう絶えず見る習慣付けができていないのかもしれないです。だから出来るだけ子どものうちからそういう習慣付けをすることによって、将来にわたっ

ての自分の命を守ることができるような方向へ持っていけるのではないのでしょうか。

- ・そんなふうにも子どもに接していただけるとありがたいですし、立哨で使う「ありがとう」というバナーも結構揃えていますので、ぜひご活用いただきたいと思います。

#### **4 情報共有・事務連絡**

- ・情報共有なし
- ・諮問に関する回答シートの提出について依頼
- ・地域共生社会推進全国サミットのチラシ配付

(次回の予定)

日時：令和5年9月28日(木) 午後7時から

場所：猿投北交流館1階 多目的ホール

内容：諮問答申について